

目指す学校像	“TEAM TOKIWA” PRIDE ＝輝く常盤中＝ わかる授業 明るい学級 夢をはぐくむ学校		
重点目標	1 ICTを活用した学びの自律化と個別最適化 2 生徒主体の活動の充実と非認知能力の向上 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 持続可能な働き方と教育活動の充実		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日	令和7年2月25日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【学力向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・理科の結果は、全国、市平均と比べ、概ね良好である。 ○全国体力・運動能力、生活習慣等調査において、実技集計の結果は、全国、市平均と比べ概ね良好である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の自校結果分析から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いで、肯定的評価は、県・国平均を上回っているが、自校生徒の実態を踏まえ、更に高めたい。	・GIGA スクール構想を活用したアクティブラーニングの推進 ・個別最適な学びの実践と、読解力向上、学びの自律化	①「主体的・対話的で深い学び」についての研究を進め、デジタル教科書やICT 機能を活用した授業により、生徒の学び続ける意欲・態度を高める。 ②全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査について、採点結果から生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	①学校評価「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の生徒の割合が 90%以上となったか。 ②学習状況調査の採点結果をもとに、生徒自らがこれまでの学習を確認、評価し、今後の学びに生かすことができたか。	①学校評価「自らの考えを持つ、他者と話合う学び」の生徒肯定的回答は、96％と、目標を上回る結果となり、高い成果を挙げることができた。 ②学習状況調査結果を教科指導において適宜解説や活用を図ったことにより、生徒自身が学習内容の理解度を自ら振り返り、既習事項等一層の定着に資することができた。	A	生徒主体の学びを推進するために、「学びの指標」を踏まえ、ICT を効果的に活用した授業づくりを図り、教師の指導力向上及び授業改善、生徒の主体性の育成に努める。	・評価項目「個別最適な学びの実践と、読解力向上、学びの自立化」の評価について、指標の結果や取組の成果を見ても、評価を高くしてよい。	
2	【安心・安全に関する取組】 (現状) ○全国学力、学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が全国、市平均と比べ、高い。 ○昨年度、登下校中の怪我が3件発生した。自転車と、自転車や人、物との接触事故だった。 (課題) ○ポストコロナにシフトする中、感染症の多様化する状況等により、教育活動の制限や学級閉鎖等が、いつ起こるかわからない状況にある。 ○築50年を経た校舎や施設について、老朽化による破損等が多い。 ○生徒にとって学校が居心地のよいWell-being な場所であり続けなければならない。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒指導の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①目と目を合わせた毎朝の健康観察や何気ない会話から、生徒の小さな変化を見逃さない風土をつくる。 ②毎学期の「ほのぼのタイム」や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ③生徒の主体性を生かした生徒委員会や部活動での取組を支援、推奨する。	①各学級で担任等による一日の始まりが円滑に行えたか。 ②生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ③学校評価「係や委員会活動等に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が95%以上となったか。	①朝の出席確認では、生徒と視線を合わせ呼名した。教職員間では、生徒個々に関する会話や気付きを共有し、支援に生かした。 ②「ほのぼのタイム」を効果的に活用し、生徒一人ひとりに寄り添った相談を担当や組織で丁寧・迅速に行うことができた。 ③生徒の回答は 96％と前年より高まり、生徒の自主的に活動する姿が一層増えている。	A	誰もが心に不安や悩みを抱える発達段階を迎えた生徒に対し、個に寄り添った指導の拡充が、一層求められる。引き続き、豊かな体験活動を推進し、非認知能力E Q（協調性や共感性、思いやり、創造力、状況把握能力等）を向上させ、心の下支えを進める。	・PTA の安全の取組からみて、自転車通学生徒が多く、安全に対する生徒の意識が向上しているように感じられない。学校全体で教員や生徒への研修など取り組んでほしい。	
3	【開かれた学校づくりに関する取組】 (現状) ○現在までの学校運営協議会において、生徒に身に付けさせたい力について熟議を重ねた。その結果、コミュニケーション力の育成に向け、あいさつの励行を徹底することを共有した。 (課題) ○ポストコロナにシフトする中、社会状況等を踏まえ、学校からの情報発信とともに、土曜授業や学校行事等の保護者・地域への適切な公開を適宜実施するとともに、地域とのインタラクティブなコミュニケーションの在り方も課題としたい。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの始動 ・便りやHP、安心メールを活用した情報発信と、教育活動参観の機会設定	①生徒の成長を支える当事者としての自覚を生徒自身、職員、保護者、地域住民それぞれに促す。 ②育てたい力「コミュニケーション力」の育成に向けた挨拶を励行する。 ③関係小学校との連携により、学校運営協議会を円滑に開催する。	①生徒への意識付け、保護者地域への説明を年度当初に行えたか。 ②目指す挨拶の仕方・姿を検討し、学校、家庭、地域で共有できたか。 ③常盤小学校、常盤北小学校との情報交換を密にし、同一の目標に向かって生徒の活動を支えたか。	①年度当初の保護者会等で、生徒を支える望ましいセーフティーネット構築への協働を懇願した。 ②学校運営協議会に生徒・職員も参画し、挨拶の意義から熟議を重ね、その結果を地域・生徒・保護者へ伝え共有した。 ③小・中合同の学校運営協議会やあいさつ運動を実施し、相互理解の深化を図った。	B	保護者の来校機会や地域との関わりが増え、学校の様子や日々の生徒の学びの姿の発信ができています。 また、生徒が、幼稚園、小学校や地域社会で学ぶ活動を取り戻し、多様な学びの具現化を図るとともに、情報発信及び交流ができています。今後も、一層の拡充を図りたい。	・不登校生徒について、Sola る一む等を活用して、地域も協力しながら学校への促しができるとよい。	
4	【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かした OJT が進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、ICT の活用等、研修が計画的に行われている。 (課題) ○全職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと高信頼性組織の意識付けが求められる。	・協調と創意を基盤とし、挑戦を奨励する組織の醸成	①「ICT の活用を通した持続可能な指導の研究」について、校内研修を通して学び合い、指導に生かす。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。 ③“チーム常盤”の教育活動の充実を図るための「情報の共有化」「場の共有化」「目標の共有化」を有機的組織として構築する。	①ICT を活用した授業の実践、研修を通して、生徒一人ひとりの学習進度や習得状況、興味関心に応じた学びの場や機会の創出ができたか。 ②職員個々が計画した人事自己評価における「研修」が予定通りに進められたか。 ③教職員の同僚性、協働性を高めることができたか。	①市教委指導主事を招聘しての研修、小中一貫教育合同研修、ICT 機器操作向上研修、定例校内研修を重ね、生徒の実態に応じた指導の工夫・改善を図る姿勢が向上した。 ②人事当初面談で策定した研修内容を教員各々が目的化し主体的に自己研鑽に努め、資質向上に努めた姿が多く見られた。 ③“チーム常盤”というキャッチワードを常に声に出し、仕事に厳しく、人に優しい和やかな“同志”としての関係を導び、生徒を守るプロ教師集団創りを進めた。	A	公教育における不易と流行を追求する中、これからの指導の在り方や働き方に関する研究も求められている。 ICT を活用した学びの推進とともに、スクール・ダッシュボードを活用した生徒の学習・生活・健康面の記録や教員の指導・支援の記録の蓄積を業務改善につなげていく。キャリアステージに応じた教師力向上とワークライフハーモニーの醸成に尽力したい。	・常盤中の生徒の活動はすばらしい。組織の雰囲気や取組はトップに表れるが、校長先生をはじめ、生徒にしっかりと目を向けて取り組んでいることがうかがえる。先生方が欠けることなく元気に勤務し、頑張っているのもよい。	

